

成育医療等基本方針に基づいた指標・施策の中間評価、 およびモニタリングに関する研究

研究代表者 山縣 然太朗（国立成育医療研究センター成育こどもシンクタンク）

研究要旨

本研究は成育基本法における成育医療等基本方針に基づいた施策の評価を行うための指標や目標値の検討、指標の評価システムの開発と、評価システムを用いた指標及び実施状況のモニタリングを行い、成育医療等基本方針の中間評価の際の基本資料として、成育医療等分科会に提供することを目的とする。

①成育医療等基本方針に基づいた評価を行うための指標のデータ更新、成育医療等基本方針の中間評価に向けた分析・評価、新たな指標や目標値設定の検討を行った。②システムを用いた指標及び施策の実施状況のモニタリングを実施した。④モニタリングシステムサーバーの移管を行った。③都道府県、市町村における成育医療等基本方針に基づく計画策定状況等の実態把握は、母子保健課調査で実施されており、その情報に基づき実態を把握した。⑤新型コロナウイルス感染症禍における小児の認知発達等の心身の健康に関する検討についてはエコチル調査の全国の実施ユニットにおけるデータクリーニングを行った。⑥乳幼児健診情報システムの一部改修を行った。

令和7年度の成育医療等基本方針の指標の中間評価に向けて準備が整った。

班員・担当者一覧

	氏名	所属機関	職名
研究代表者	山縣 然太郎	国立成育医療研究センター 成育こどもシンクタンク	副所長
研究分担者	上原 里程	国立保健医療科学院疫学・統計研究部	部長
	尾島 俊之	浜松医科大学医学部医学科健康社会医学講座	教授
	市川 香織	東京情報大学看護学部看護学科	教授
	相田 潤	東京科学大学大学院医歯学総合研究科	教授
	後藤 あや	福島県立医科大学総合科学教育研究センター	特任教授
	甲賀 かをり	千葉大学大学院医学研究院産婦人科学	教授
	森崎 菜穂	国立成育医療研究センター研究所社会医学研究部	部長
	竹原 健二	国立成育医療研究センター研究所政策科学研究部	部長
	松浦 賢長	福岡県立大学看護学部	教授
	永光 信一郎	福岡大学医学部小児科	教授
研究協力者	秋山 有佳	山梨学院大学栄養学部	講師
	新井 猛浩	山形大学地域教育文化学部	教授
	島田 怜実	東京科学大学大学院医歯学総合研究科	大学院生
	石塚 一枝	国立成育医療研究センター研究所社会医学研究部	研究員
	三好 しのぶ	国立成育医療研究センター研究所社会医学研究部	研究補助員

A. 研究目的

本研究は成育基本法における成育医療等基本方針に基づいた施策の評価を行うための指標や目標値の検討、指標の評価システムの開発と、評価システムを用いた指標及び実施状況のモニタリングを行い、成育医療等基本方針の中間評価の際の基本資料として、成育医療等分科会に提供することを目的とする。

B. 研究方法

下記を実施した。

1. 成育医療等基本方針に基づいた指標の中間評価方法の検討
2. 成育医療等基本方針に基づいた指標の直近値算出
3. 地域で子育てを支える：こんにちは赤ちゃん訪問の役割と今後の課題
4. 社会的ハイリスク妊産婦への支援に関する研究～事例作成の試み
5. 成育医療等基本方針の指標で「十代の自殺死亡率」の改善に向けた思春期の睡眠習慣に関する調査
6. 子どもの歯科疾患の予防に関する WHO 必須医薬品モデルリストと日本の状況
7. 都道府県医療計画の成育医療等に関する指標と成育医療等基本方針の指標の比較の試みに関する研究
8. 市町村の母子保健事業等に関する調査結果
具体的な方法は分担研究報告書に記載する。

C. 研究結果

1. 成育医療等基本方針に基づいた評価の準備
健やか親子21の指標の評価シートを基にして69指標の評価シートを作成した。課題名、指標の種類、ベースライン値、直近値、目標値、評価、データソース、結果、分析、課題、算出方法について記載する形式であ

る。評価シートは分担研究報告で記載する。

また、山梨大学から国立成育医療研究センターへのサーバーの移行は委託業者と共に順調に行い、次のURLで運用を始めた。

- ・ 指標：
<https://index.infanthces.ncchd.go.jp/pub/>
- ・ 乳幼児健診情報システム：
<https://sukoyaka21.cfa.go.jp/useful-tools/infant-info/>

2. 69の指標の直近値は分担研究報告に記載した。
3. 「成育医療等の提供に関する施策の総合的な推進に関する基本的な方針」に基づく施策の実施状況に関する評価の指標には、「この地域で子育てをしたいと思うか」が指標として含まれている。本報告ではこんにちは赤ちゃん訪問の事業評価を毎年行っている自治体のデータを用いて、その訪問の対象者（乳児の親）の気持ちと、訪問者（こんにちは赤ちゃん応援隊）のやりがいについて分析を行った。本研究の結果より、訪問事業が親にとって周囲との関わりを持つ機会となり得ることが示唆された。応援隊側においても、多くの者が活動にやりがいを感じており、その背景には経験年数、保健師との連携、活動前のイメージ形成、活動後の交流機会などが関連していた。訪問活動をより充実させるには、応援隊同士の情報交換の場や保健師との継続的な連携体制の構築が必要である。
4. 社会的ハイリスク妊産婦への支援の必要性が高まっている。そこで、社会的ハイリスク妊産婦の課題について、医療機関の従事者（助産師、看護師等）や母子保健担当者、福祉部門担当者等が、研修等を通して一緒に考え、話し合う機会で使用するために、社会的ハイリスク妊産婦への支援や対応において参考になる事例を作成することとした。

社会的ハイリスク妊産婦への支援に関わっている助産師2名(訪問看護に従事している助産師1名、アウトリーチ型産後ケアを実践している助産師1名)の協力を得て、事例の作成を試みた。①産後メンタルヘルスの悪化がみられ訪問看護による継続的な支援を実施した事例、②母乳育児に固執したことにより児の体重増加不良を来し、結果的に児童虐待となった事例、③人工死産後に産後ケアを実施した事例の3事例を作成した。事例は【社会的ハイリスクとなる背景】【支援やケアの介入ポイント】【連携先と課題】を明確にすることを意識しながら作成した。今後はこれらの事例を使ったディスカッションの機会を作り、意見交換を行っていく必要があると考える。

5. 小学校4年生から中学3年生の207名の平均睡眠時間、平均入眠時刻、平均入眠潜時は各々、8時間28分、22時43分、21分であった。いずれも健康スコアと正または負の有意な相関を認めた($p<0.001$, $p<0.001$, $p<0.001$)。また平均睡眠時間、平均入眠時刻のバラツキが大きいくほど、健康スコアの有意な悪化が認められた($p<0.001$, $p<0.001$)。入眠潜時間が長いほど、健康スコアの有意な悪化を認めた($p<0.001$)。

6. フッ化物配合歯磨剤に関しては、2023年に出された「4学会合同のフッ化物配合歯磨剤の推奨される利用方法」がWHO必須医薬品モデルリストと整合性のある内容であった。フッ化物歯面塗布に関しては、WHOは家庭でのセルフケアでの利用を考慮して6歳未満への利用を推奨しておらず、その代わりに専門家によるプロフェッショナルケアで使われる、塗布よりも高いフッ化物濃度であるフッ化物バーニッシュを6歳未満に推奨をしていた。日本ではフッ化物バーニッシュは

う蝕予防の適用がない一方、フッ化物歯面塗布を専門家によるプロフェッショナルケアのみで実施している。そのため日本ではこれまで通り6歳未満にもフッ化物歯面塗布を利用すべきであり、WHOのリストをそのまま適用することは不適切だと考えられた。フッ化物洗口に関して同様に6歳未満に推奨していない一方で、日本における事例(4歳からのフッ化物洗口)がモデルリストの解説の中で好意的に紹介されており、引き続き日本で推奨されている方法でのフッ化物洗口の利用を継続していくべきだと考えられた。

7. 都道府県医療計画に関しては、任意の3県(栃木県、埼玉県、広島県)について取り上げ、成育医療等に関する指標をリストした。3県の医療計画のいずれかに記載された指標のうち成育医療等基本方針の評価指標と合致あるいは類似していたものは30%程度であった。任意の3県の医療計画に記載された成育医療等に関する指標の多くは自治体独自に設定されたものであった。

8. 「こども計画」を令和6年度までに策定の市町村は約半数であったが、「成育医療等に関する計画」と一体的に策定しているところは14%と少なかった。こども家庭センターで策定する、サポートプランのスティグマ対策として、「作成対象者を厳選する」が約20%ある一方、「多くの人を作成対象者にして特別なことではないようにする」というところは約15%であった。サポートプランの作成が定着した時点において、サポートプランの作成を推進する年齢の児童のうち作成対象者がどのくらいの割合になると思われるかについて、1%~10%未満が3割で最も多いのに対し、「50%以上」という回答が約3%と少ないながらも一定の割合を示した。

D. 考察

研究代表者の所属の移動に伴い、モニタリングシステムや乳幼児健診情報システムのサーバーの移行および、その健やか親子21ホームページからのリンクを行ったが、関係各所との連携がスムーズに行え、問題なく完了した。令和7年度の成育医療等基本方針の中間評価に向けた分析・評価方法および評価シートについては健やか親子21の中間評価、最終評価で用いたシートとの整合性を加味して作成することができ、令和7年度早々に評価作業を実施できる準備ができた。

分担研究についての考察は分担研究報告に記載する。

E. 結論

成育医療等基本方針の推進に資するために、指標の見える化、アップデート、令和7年度実施予定の指標の中間評価に向けて方法の検討および評価シートの作成を実施した。

分担研究についての結論は分担研究報告書に記載する。

F. 健康危機情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 山縣 然太朗.成育基本法の施行およびこども家庭庁設置で学校保健はどう変わるか(解説).学校保健研究(0386-9598)66 巻 2 号 Page79-82(2024.07)
- 2) 山縣 然太朗.«こどもまんなか社会»を目指して-健やか親子21と成育医療等基本方針-.公衆衛生(0368-5187)88 巻 11 号 Page1110-1119(2024.11)

- 3) Kato K, Iriyama T, Hara K, Suzuki K, Hashimoto A, Sayama S, Ichinose M, Toshimitsu M, Seyama T, Sone K, Kumasawa K, Nagamatsu T, Hirota Y, Koga K, Osuga Y. Increased risk of placenta previa and preterm birth in pregnant women with endometriosis/adenomyosis: A propensity-score matching analysis of a nationwide perinatal database in Japan. J Obstet Gynaecol Res. 2024 Mar;50(3):351-357. doi:10.1111/jog.15849. Epub 2023 Dec 10. PMID: 38072834.
- 4) Ishikawa S, Ishikawa H, Sato M, Nagasawa A, Suzuki Y, Okayama J, Nakada E, Omoto A, Shozu M, Koga K. Postpartum acute adrenal insufficiency of early-onset Sheehan syndrome: A case series study in a single center. J Obstet Gynaecol Res. 2024 Feb;50(2):205-211. doi: 10.1111/jog.15838. Epub 2023 Nov 20. PMID:37986644.
- 5) Ishida R, Ohbe H, Izumi G, Shigemi D, Matsui H, Koga K, Yasunaga H, Osuga Y. National trends in treatments for ectopic pregnancy in Japan from 2010 to 2020: a retrospective observational study. J Obstet Gynaecol. 2024 Dec;44(1):2373938. doi: 10.1080/01443615.2024.2373938. Epub 2024 Jul 15. PMID: 39007782.
- 6) 長澤亜希子、尾本暁子、廣岡千草、山本敬介、篠原佳子、廣澤聡子、佐藤美香、岡山潤、中田恵美里、甲賀かをり 胎児腹水と子宮留水症を伴う後部総排泄腔遺残症に臍帯血栓を合併し子宮内胎児死亡となった一例 日本周産期・新生児医学会雑誌(1348-964X)60 巻 2 号 Page304-309(2024.09)
- 7) 佐藤美香、甲賀かをり 【産婦人科医が知っておきたい プレコンセプションケアの最前線 I】職域におけるプレコンセプション

ケア 産婦人科の実際(0558-4728)73 巻 5 号
Page467-472(2024.05)

- 8) 田中恭子, 岡田あゆみ, 長濱輝代, 作田亮一, 武内治郎, 永光信一郎 他. 心身相関をベースとした子どもの心の診療連携における課題と提言 日本小児科学会雑誌 (2024.6 ; 128(6) : 851-858)
- 9) 児島加奈子, 瀬戸上貴資, 伊東和俊, 西岡笑子, 岡山久代, 松浦賢長, 川名敬, 榊原秀也, 永光信一郎. ヒトパピローマウイルス (HPV : Human papillomavirus) ワクチン接種を促進するための検討 : 福岡大学でのアンケート調査の結果を基に 思春期学 (2024;42(2);349-359)
- 10) Niimi T, Tanaka T, Aoyagi C, Onda Y, Nagamitsu S, Kodama S. Co-culture of vascular endothelial cells enhances corticosterone production in steroid hormone-producing cells generated from adipose-derived mesenchymal stromal cells. Sci Rep. 2024 Aug 13;14(1):18804.
- 11) Suzuki Y, Nagamitsu S, Eshima N, Inoue T, Otani R, et al. Body weight and eating attitudes influence improvement of depressive symptoms in children and pre-adolescents with eating disorders: a prospective multicenter cohort study. BMC Pediatrics volume (2024) 24:551
- 12) 松岡 美智, 石井 隆大, 永光 信一郎, 小曾根 基裕. 精神疾患患者を親にもつ子どもへのインタビュー調査 子どもの心とからだ (2024.11;33(3):298-306)

2. 学会発表

- 1) 山縣 然太朗. 母子保健の視点から考える「こどもまんなか社会」の実現 母子保健の視点から考えるこども家庭センターの役

割(会議録)

- 2) 第 39 回日本生殖免疫学会総会・学術集会 (12 月 13 日、富山) 母体の抗 SS-A 抗体が陽性で胎児心疾患をきたした 5 例の検討 廣岡千草、尾本暁子、藤田侑里、篠原佳子、廣澤聡子、佐藤美香、長澤亜希子、中田 恵美里、石川博士、甲賀かをり Reproductive Immunology and Biology(1881-607X)39 巻 1-2 号 Page145(2024.12)
- 3) 第 39 回日本生殖免疫学会総会・学術集会 (12 月 13 日、富山) 難治性妊娠性絨毛腫瘍に対して免疫チェックポイント阻害薬を使用した 2 症例 片山恵里、碓井宏和、中村名律子、大平学、松坂恵介、池田純一郎、新見薫、鏡京介、藤原浩、甲賀かをり Reproductive Immunology and Biology(1881-607X)39 巻 1-2 号 Page146(2024.12)
- 4) 第 34 回臨床内分泌代謝 Update (11 月 29 日～30 日、愛知) 廣岡千草、石川博士、篠原佳子、廣澤聡子、金子明夏、羽生裕二、佐藤美香、長澤亜希子、岡山潤、中田恵美里、尾本暁子、甲賀かをり 妊娠中にホルモン補充の調節を要した下垂体機能低下症の一例 日本内分泌学会雑誌(0029-0661)100 巻 2 号 Page649(2024.10)
- 5) 第 39 回日本女性医学学会学術集会 (11 月 9 日～10 日、栃木) 妊娠中に痛みを繰り返す尿道周囲嚢胞に対し、尿道カテーテル留置が奏効した 1 例 長澤亜希子、石川博士、後藤優希、廣岡千草、篠原佳子、片山恵里、馬場七織、奥谷理恵、金子明夏、廣澤聡子、齋藤佳子、中村名律子、羽生裕二、甲賀かをり 日本女性医学学会雑誌(2185-8861)32 巻 1 号 Page222(2024.10)
- 6) 第 148 回関東連合産科婦人科学会総会・学術集会 (10 月 19 日～20 日、長野) 妊娠中期に診断された、妊娠高血圧様症状、甲状腺機

能亢進症、黄体化過剰反応を伴う全胎状奇胎の一例 荻原怜、中村名律子、酒井希望、大塚聡代、片山恵里、奥谷理恵、羽生裕二、錦見恭子、楯真一、国府田きよ子、碓井宏和、甲賀かをり 関東連合産科婦人科学会誌 (2186-0610)61 巻 3 号 Page360(2024.10)

7) 第 148 回関東連合産科婦人科学会総会・学術集会 (10 月 19 日～20 日、長野) 産褥 2 日目に、A 群 β 溶血性レンサ球菌感染症により血圧低下、尿量減少がみられた一例 柳生笹那、佐藤美香、廣岡千草、篠原佳子、廣澤聡子、長澤亜希子、中田恵美里、尾本暁子、石田茂誠、甲賀かをり 関東連合産科婦人科学会誌 (2186-0610)61 巻 3 号 Page344(2024.10)

8) 第 148 回関東連合産科婦人科学会総会・学術集会 (10 月 19 日～20 日、長野) 自然退縮した胎児多房性卵巣嚢腫の 1 例 奥仲亜弥子、長澤亜希子、廣岡千草、篠原佳子、廣澤聡子、佐藤美香、中田恵美里、尾本暁子、笈田諭、菱木知郎、甲賀かをり 関東連合産科婦人科学会誌 (2186-0610)61 巻 3 号 Page337(2024.10)

9) 第 148 回関東連合産科婦人科学会総会・学術集会 (10 月 19 日～20 日、長野) 当科で周産期管理を行った子宮腺筋症合併妊娠 42 人 50 症例に対する周産期予後の検討 矢崎智恵、尾本暁子、内海真菜、大塚美保、福元創、松田優人、弓削彩乃、齊藤佳子、長澤亜希子、中田恵美里、石川博士、甲賀かをり 関東連合産科婦人科学会誌 (2186-0610)61 巻 3 号 Page331(2024.10)

10) 第 148 回関東連合産科婦人科学会総会・学術集会 (10 月 19 日～20 日、長野) 妊娠中に発症した原因の異なるくも膜下出血の 2 症例 木村亮介、廣岡千草、篠原佳子、廣澤聡子、長澤亜希子、佐藤美香、中田恵美里、尾本

暁子、久保田真彰、田島洋佑、樋口佳則、甲賀かをり 関東連合産科婦人科学会誌 (2186-0610)61 巻 3 号 Page330(2024.10)

11) 日本性機能学会第 34 回学術総会 (9 月 13 日～14 日、東京) 現代女性の健康問題を「性機能」から考える 甲賀かをり 日本性機能学会雑誌(1345-8361)39 巻 2 号 Page120(2024.08)

12) 第 66 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (7 月 18 日～20 日、鹿児島) 流産組織遺残と鑑別を要し血清 hCG 値、病理学的再評価、再掻爬が有用であった臨床的侵入奇胎の一例 片山恵里、碓井宏和、中村名律子、大塚聡代、奥谷理恵、羽生裕二、松岡歩、錦見恭子、楯真一、相原啓紀、池田純一郎、甲賀かをり 日本婦人科腫瘍学会学術講演会プログラム・抄録集 66 回 Page296(2024.07)

13) 第 60 回日本周産期・新生児医学会学術集会 (7 月 13 日～15 日、大阪) 当院にて分娩した SARS-CoV-2 感染妊婦の胎盤病理と臨床所見に関する検討 篠原佳子、尾本暁子、廣岡千草、廣澤聡子、長澤亜希子、佐藤美香、岡山潤、中田恵美里、岸本充、池田純一郎、甲賀かをり 日本周産期・新生児医学会雑誌 (1348-964X)60 巻 Suppl.1 Page P359(2024.06)

14) 第 60 回日本周産期・新生児医学会学術集会 (7 月 13 日～15 日、大阪) 遷延する胎児水腫を伴う胎児先天性肺気道奇形に経母体ステロイド再投与を行った 1 例 長澤亜希子、尾本暁子、廣岡千草、山本敬介、篠原佳子、廣澤聡子、佐藤美香、岡山潤、中田恵美里、三上裕太、遠藤真美子、大曾根義輝、川口雄之亮、菱木知郎、甲賀かをり 日本周産期・新生児医学会雑誌(1348-964X)60 巻 Suppl.1 Page P256(2024.06)

15) 第 60 回日本周産期・新生児医学会学術集会 (7 月 13 日～15 日、大阪) 当院プレコンセプションケア外来を受診した女性に対する診

療録ならびにアンケート調査の検討 佐藤美香、廣岡千草、篠原佳子、山本敬介、廣澤聡子、長澤亜希子、岡山潤、中田恵美里、尾本暁子、甲賀かをり 日本周産期・新生児医学会雑誌(1348-964X)60 巻 Suppl.1 Page P239(2024.06)

16) 第 60 回日本周産期・新生児医学会学術集会 (7 月 13 日～15 日、大阪) 当院で経験した胎児腹腔内臍帯静脈瘤の 13 例 廣澤聡子、尾本暁子、廣岡千草、篠原佳子、山本敬介、佐藤美香、長澤亜希子、岡山潤、中田恵美里、甲賀かをり、遠藤真美子、大曾根義輝、濱田洋通、吉澤比呂子、菱木知郎 日本周産期・新生児医学会雑誌(1348-964X)60 巻 Suppl.1 Page P232(2024.06)

17) 第 60 回日本周産期・新生児医学会学術集会 (7 月 13 日～15 日、大阪) 高血圧合併妊娠の周産期予後と合併症の有無の検討 廣岡千草、尾本暁子、篠原佳子、山本敬介、廣澤聡子、長澤亜希子、佐藤美香、岡山潤、中田恵美里、甲賀かをり。日本周産期・新生児医学会雑誌(1348-964X)60 巻 Suppl.1 Page P192(2024.06)

18) 第 147 回 関東連合産科婦人科学会 総会・学術集会 (6 月 15 日～16 日、東京) 二絨毛膜二羊膜双胎の両児に Hirschsprung 病を発症した 1 例 松田優人、篠原佳子、廣岡千草、廣澤聡子、長澤亜希子、佐藤美香、岡山潤、中田恵美里、尾本暁子、甲賀かをり、菱木知郎、武之内史子。関東連合産科婦人科学会雑誌(2186-0610)61 巻 2 号 Page194(2024.05)

19) 第 24 回日本抗加齢医学会総会 (5 月 31 日～6 月 2 日、熊本) 異次元の少子化対策をアンチエイジングの観点から考える 甲賀かをり 日本抗加齢医学会総会プログラム・抄録集 24 回 Page186(2024.05)

20) 第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会 (4

月 19 日～21 日、神奈川) 下垂体機能低下症合併妊娠の周産期予後の検討 廣岡千草、尾本暁子、山本敬介、篠原佳子、廣澤聡子、長澤亜希子、佐藤美香、岡山潤、中田恵美里、甲賀かをり 日本産科婦人科学会雑誌(0300-9165)76 巻臨増 Page S-422(2024.02)

21) 永光信一郎. Well-care Visits —乳幼児健診で育む、子どもの睡眠— / 第 127 回日本小児科学会学術集会 (2024.4.20、福岡)

22) 永光信一郎. こどもの健やかな睡眠環境を整える / 第 48 回日本睡眠学会定期学術集会 (2024.7.18、神奈川)

23) 永光信一郎. こどもの睡眠と発達・行動・心 / 第 48 回日本睡眠学会定期学術集会 (2024.7.19、神奈川)

24) 永光信一郎. 神経発達症が背景にある心身症の診断と治療の実際 / 第 33 回日本外来小児科学会年次集会 (2024.9.8、岐阜)

25) 永光信一郎. 子どもの摂食障害への対応力向上を目指して / 第 64 回日本心身医学会九州地方会 (2025.2.8、福岡)

26) 永光信一郎. 小児科医の挑戦 —5 歳児健診をすべてのこどもに— / 第 164 回日本小児科学会栃木県地方会 (2025.3.16、栃木)

27) 永光信一郎. ライフステージと睡眠 —小児科期からのこころの健康づくり— / APPW2025 (第 130 回日本解剖学会・第 102 回日本生理学会・第 98 回日本薬理学会 合同大会) (2025.3.17、千葉)

28) 相田潤. フッ化物洗口やフッ化物配合歯磨剤のさらなる展開: WHO やコ克蘭ライブラリーの解説を交えて. 第 73 回日本口腔衛生学会学術大会 2024.05.11 盛岡

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

- 1) 健やか親子 21 妊娠・出産・子育て期の健康に関する情報サイトへの「成育医療等基本方針に基づく施策の実施状況に関する評価指標」の一覧表及びグラフの提供
<https://index.infanthces.ncchd.go.jp/pub/>
(2025年5月26日確認)